

令和2年10月7日

副学長（教育担当）

清水 諭 様

全学学類・専門学群代表者会議

教育環境委員会 加藤 風花

来年度の土曜授業に関する意見

今年度の土曜授業の実施をうけて、土曜授業について学生がどのような意見をもっているかを調査した。その結果、土曜授業の実施に不満をもつ学生が多いことが分かった。よって、来年度もオリンピックに向けて土曜授業を実施することは学生にとって不利益である。以下からは、「土曜授業に関する調査」の結果と考察、土曜授業の実施以外でオリンピックに対応する方法の検討を記す。

土曜授業に関する調査について

6月末から7月上旬にかけて、全代会調査委員会は来年度の土曜授業に関して学生の意見を問う調査を行った。詳細な調査結果を参考資料1として添付する。

まず、五輪ボランティアに参加しようと思っている学生の割合は12.4%であった。そのうち、土曜授業が必要だと思っている学生の割合は27.1%であり、五輪ボランティアに参加しようと思っている学生であっても、その多くは、土曜授業は必要ではないと思っていることが分かった。次に、五輪ボランティアに参加しようと思っていない学生のうち、土曜授業に肯定的だったのは12.9%であり、やはり多くの学生が土曜授業に否定的であることが分かった。五輪ボランティアの参加の有無を除いてみると、土曜授業に肯定的である学生は14.7%、否定的な学生は85.3%であった。また、五輪ボランティアに参加しようと思っていて土曜授業が必要だと思っている学生の割合は、全体の3%ほどであった。このことから、実際に土曜授業の実施を必要としている学生はごく一部であると考えられる。もちろん、ごく一部だからといってその意見を無視することはできない。そこで、後にこのような学生に対してどのように対応すべきか検討する。

次に、今年度春学期の授業について、どの部分に負担を感じたかという質問に対して、オンライン授業であることはそこまで負担となっておらず、課題の量が増えたことと同程度に、土曜授業が実施されたことを負担に感じた人が多かった。この結果から、今年度春学期の授業に対する不満や不安の多くは、オンライン授業であったことによるものではなく、課題の量や土曜授業の実施によるものだということが分かる。

最後に、2021年度春学期中、土曜授業があると実施できない活動があるかという質問に対しては、「ある」「未定だがおそらくある」が合計約48%、「ない」「未定だがおそらくない」が合計約19%となった。土曜授業の実施によって、課外活動が制限される可能性は少ないとみてよいだろう。

土曜授業の実施のデメリットについて

ここでは、具体的な土曜授業のデメリットについて述べる。

まず、大学では1単位に対して授業時間、予習・復習等の時間を合計し45時間となるように設定されており、筑波大学では1コマ75分を90分として計算している。1単位あたり基本的に約10~12回の授業が行われると考えると、予習・復習等の時間に授業の約2倍の時間をかけることになる。また、年間45単位を上限とするため、半期に22.5単位を修得すると考える。すると、主にABモジュールでは週に15コマがあることになる。なお、実際はABモジュールに授業が集中している学生も多いため、あくまで平均した値で計算する。すると、一日あたり3コマであり、学修時間は75分×(予習・復習等の時間+実際の授業時間の)3×3コマで約11時間となる。11時間を一日の間で完了することは難しいため、多くは土日に予習・復習等をするようになる。しかし、土曜日にも授業を行うとなると、残るのは日曜だけであり、さらに土曜日にも授業を実施すれば土曜日分の予習・復習等の時間がさらに上乘せられて日曜に学修しなければならなくなる。一日に学修に費やすことができる時間を、大学での授業時間いっぱいとして考えると、授業日に学修しきれない分は3コマ分=約3~4時間となる。これを3時間と見積もって、週5日授業があると計算しても、15時間もの学修を土日に行わなければならない。また、土曜授業が実施された場合、18時間もの学修を日曜日に行わなければならないという計算になる。これは非現実的な数値ではないだろうか。つまり、土曜授業を実施していない段階でさえ1単位あたりの学修時間の規定を満たすことは非常に困難であるため、土曜授業を実施すればさらにそれが困難になり、学修が疎かになる蓋然性が高いのである。

次に、学生の生の意見として、以前に行われた「オンライン授業に関する調査」に寄せられた意見の中で、土曜授業に関連するものをピックアップして、以下に記す。

○学業について

- ・土曜授業によって週2回受ける授業があり、仕方がないこととは思いますが課題が多く感じてしまう。
- ・土曜に授業があるため予習復習の時間が取りづらい。
- ・オンラインというか土曜授業で課題が最短1日で提出しないといけないし、復習などやっつけられない。
- ・土曜日も授業があるので、宿題が多いだけでなく、やる時間も足りないと感じます。
- ・土曜日が授業になったことでバイトを入れられない。日曜日に入れるとしても休日に課題を消化しなければいけないため、休みをとった感じがしない。
- ・土曜授業があることがかなりの負担になっている。
- ・土曜日も授業があるため休日や空きコマに課題に追われることになり、授業の復習や関連

する文献を読んで知見を深めるなどできない。

- ・土曜授業で課題の質が落ちてしまう(時間に追われるため)。
- ・土曜もないし、課題に追われてしまう。
- ・土曜日も授業なので課題を捌く時間が圧倒的に足りない。
- ・オンライン授業自体は特に問題ないのですが、土曜日授業があることによって課題量が膨大になっているのが問題だと思います。
- ・土曜日休みがないのに課題が多く全然休む時間がない。
- ・授業を見返すことができるおかげでとても理解できるようになったので、オンライン授業自体は良いと思う。ただ、土曜授業でも普通に課題が出されるので週 6 日授業は負担が大きい。
- ・オンライン授業だと全体的に課題が多くなるが、土曜授業になっている曜日の授業では週に 2 回も課題が出ることになるので、負担が大きい。来年もオリンピックで土曜授業を検討している場合は是非やめてほしい。
- ・6 日授業して休みが 1 日しかないのはきつい。夏休みが伸びてもいいので、新たに対応を考えて欲しい。
- ・今は土曜日の授業もありますので、課題をやる時間が減りましたが課題の量が多くなって困ります。
- ・土曜授業が入ることで、休日に課題を行うどころか土曜日分の課題も増えて追い打ちがかかってしまっている。

○学業以外について

- ・対面式授業だとしても土曜授業は学生にとってかなりの負担であることは明らかであると考え。土曜日にしか済ませられない用事を済ませるために折り合いをつけるのがとてもストレスである。
- ・アルバイトに入っていない私でもしんどいのでアルバイトで生活費を稼いでいる学生は相当な苦勞をしていると思う。
- ・土曜日授業があることでバイトも殆ど出来ませんので金銭面でも非常に困ります。
- ・休日が 1 日減るので就活との両立が難しい。

以上のように、課題が週に 2 回出される科目があることに対する不満が多い。また、アルバイトなどできないことで苦しい生活を送ることになる学生もいる。学生が適切な学習量を確保しながらそのほかの活動も行っていくためには、土曜授業を実施すべきではない。

土曜授業の実施以外の方法の検討

ここからは、来年度のオリンピックに向けて、土曜授業の実施以外の方法で対応できないかを検討する。全代会及び教育環境委員会内でいくつかの方法を検討した。これらは全ての実施を要望するものではない。

1.土曜日以外で授業を実施してオリンピックに対応する方法

①春 C を全て別の時期に移行する

(1)令和 3 年度の春 A の直前(令和 3 年 3 月 8 日～4 月 2 日)

- ・後期試験の合格発表に間に合わない

(2)本来の春 C の時期の直後(令和 3 年 8 月 9 日～9 月 10 日)

- ・夏季休業中に実施予定の集中講義などと被る可能性がある
- ・留学や旅行、帰省などの予定を考えにくくなる

(3)秋 A の直前(令和 3 年 8 月 30 日～9 月 30 日)

- ・(2)と同様のデメリットがある

(4)秋 C の直後(令和 4 年 2 月 17 日～3 月 24 日)

- ・(2)(3)と同様に、春季休業中の集中講義や長期の予定が立てにくい

(5)令和 4 年度の春 A の直前(令和 4 年 3 月 1 日～4 月 1 日)

②春 C のうち、オリンピック期間(令和 3 年 7 月 23 日～8 月 8 日の 17 日間)のみを別の時期に移行する

(1)令和 3 年度の春 A の直前(令和 3 年 3 月 18 日～4 月 3 日?)

(2)本来の春 C の時期の直後(令和 3 年 8 月 9 日～8 月 26 日?)

(3)秋 A の直前(令和 3 年 9 月 14 日～9 月 30 日)

(4)秋 C の直後(令和 4 年 2 月 14 日～3 月 3 日?)

(5)令和 4 年度の春 A の直前(令和 4 年 3 月 18 日～4 月 2 日?)

《(1)~(5)に共通の特徴》

- ・①より短期間の移行となるため、いくつかのデメリットがなくなる
- ・1つの科目をまとめた時期に実施できなくなるというデメリットがある

【考察】

①②どちらにしても、春 ABC モジュールを通して開講する科目(外国語など)はどのように開講するかなどの問題点がある。

2.授業を実施する時期を移行する以外の方法

①一部をオンラインで実施し、自由な時間に受講できるようにすることで、オリンピックに

ボランティア等で参加する学生も各自で受講できるようにする。

→便宜上の春Cにオンラインで実施可能な、実施しやすい科目を多く設定する必要がある。

②授業時間を長めにする。

③コマ数を増やす。

④集中講義を増やす。

⑤オリンピック参加者のみ、成績評価方法などについて特別な措置をとる。

【課題点】

- ・①⑤について、他の学生が不公平感をもつ可能性がある。
- ・②③④について、土曜授業と同様に課外活動やアルバイト等の時間を圧迫してしまう可能性がある。

以上の案を教育環境委員会内で検討した結果、「2.授業を実施する時期を移行する以外の方法」の①と⑤がより適切ではないかという結論になった。①については、今年度既にオンラインでの授業実施がなされており、⑤については、教育実習や就職活動のある学生に対して既に同様の措置が取られている科目があるため、どちらとも現実的であると予想される。授業日を移行したり授業時間を延長したりする案については、学生によって生活スタイルも異なることから、土曜授業と同様に不満が出てしまう懸念がある。よって、オンライン授業と成績評価における配慮を組み合わせることでオリンピック参加者に対応することが適切であると考えられる。